

株式会社キカグク

～教育を軸に人材領域で企業の DX を支援～



会社概要

- 社名：株式会社キカガク
- 代表者：大崎 将寛
- 所在地：〒150-0002
東京都渋谷区渋谷2-6-4
渋谷イーストプレイス4F
- 設立：2017年1月17日
- 従業員：200名（正社員150名）
- 資本金：20,499,140円
- 代表番号：03-6260-9632



代表者情報

創業者：吉崎 亮介

- ・1991年 京都出身
- ・京都大学大学院にてAIによる製造業のプロセス改善の研究
- ・株式会社SHIFTにて社長室業務に従事
- ・2017年1月株式会社キカガクを設立（2023年12月会長を退任）

代表取締役社長：大崎 将寛

- ・1991年 大阪出身
- ・三菱UFJモルガン・スタンレー証券投資銀行本部にてIPOコンサルティング業務に従事
- ・シンガポールヘッジファンド、MNJ Capital Management Pte Ltdにてトレーディングに従事
- ・2019年12月キカガクへCFOとして参画し、2021年1月代表取締役社長

Mission

るべき“教育”で人の力を解放する

研修事業

企業の課題に合わせた
カスタマイズ研修や
先端技術を最短で学べる
動画学習プラットフォーム

AX事業

AIモデル開発・コンサル
ティングを中心に企業の
DX/AX推進を支援

スクール事業

AI・データサイエンスに
特化した6ヶ月間の長期コ
ースを運営

インターナショナル スクール

AI時代に対応した教育を
軸に、国際カリキュラム
に基づいた探究学習と
STEAM教育を提供

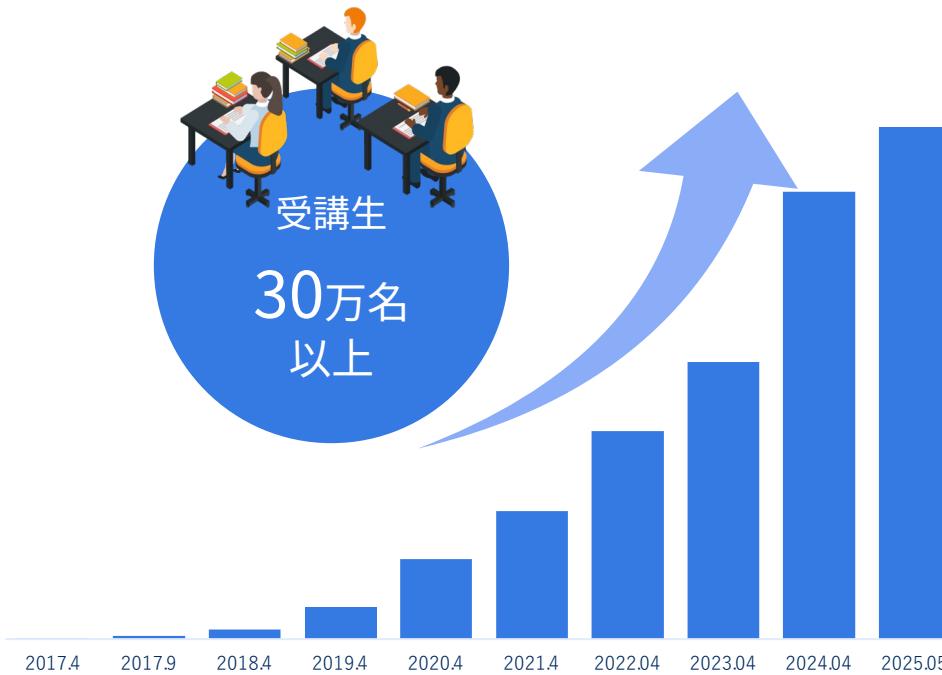
通信教育事業

AI時代の基礎リテラシー
を家庭で身につけるお子
様向けのオンライン通信
教育

法人 / 社会人向け

幼児／子ども向け

受講生 30万名以上、クライアント 1,000 社以上

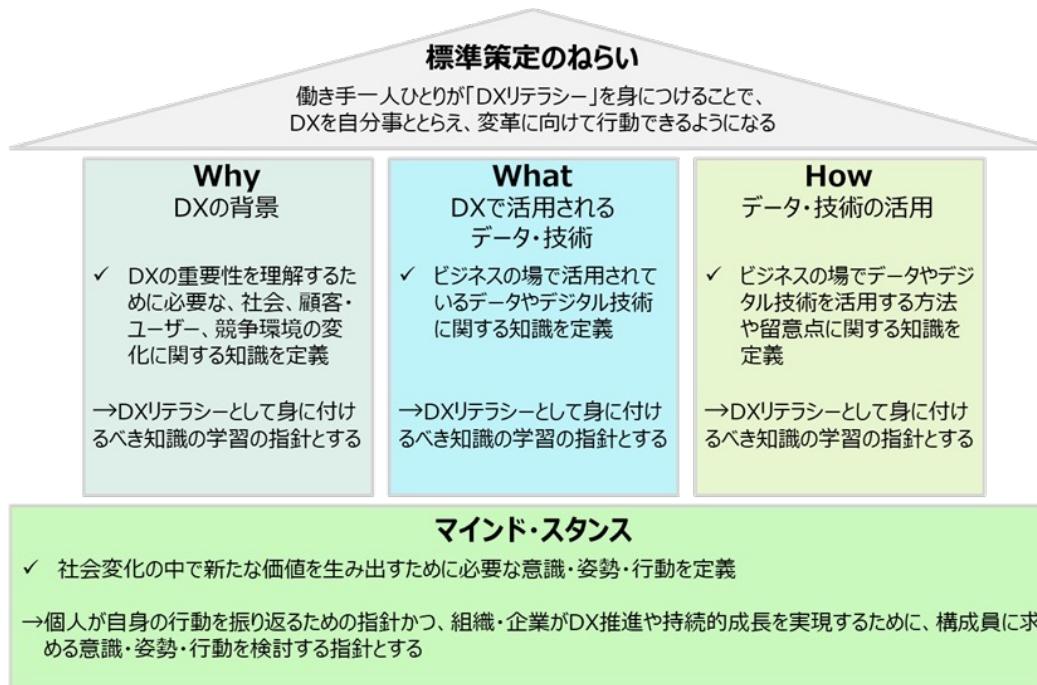


参考：デジタルスキル標準

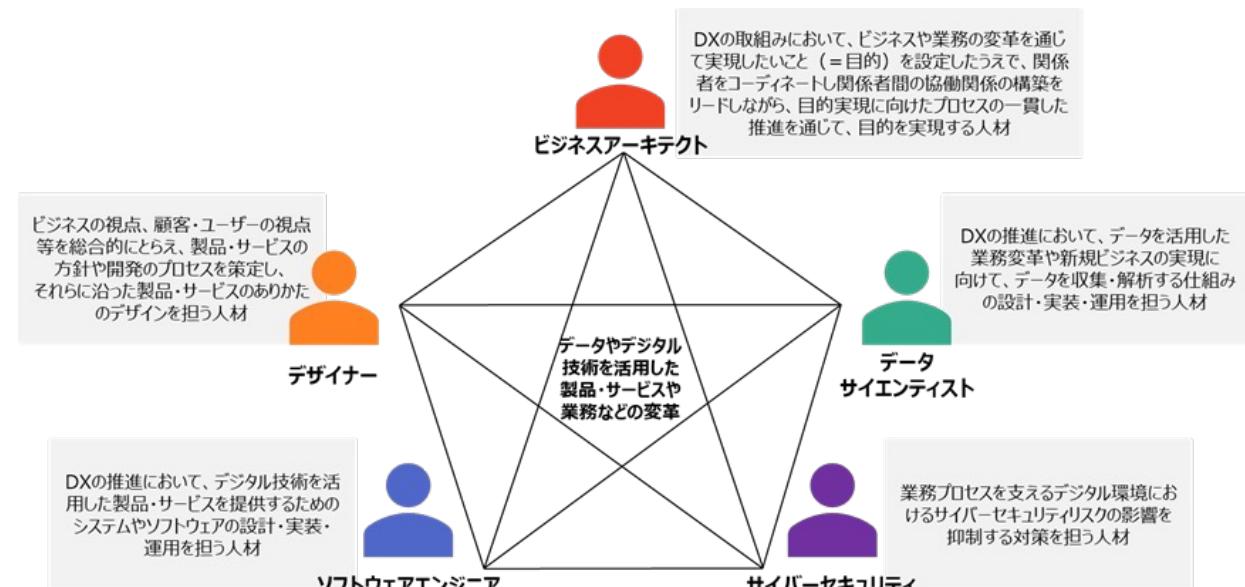
経済産業省とIPAがDX推進人材向けにデジタルスキル標準を取りまとめました。以下2つから構成されます。

- ✓ ビジネスパーソン全体がDXに関する基礎的な知識やスキル・マインドを身につけるための指針である「DXリテラシー標準」
- ✓ 企業がDXを推進する専門性を持った人材を育成・採用するための指針である「DX推進スキル標準」

DXリテラシー標準



DX推進スキル標準



経済産業省「「デジタルスキル標準」をとりまとめました！」より引用 (<https://www.meti.go.jp/press/2022/12/20221221002/20221221002.html>)

DX 推進人材の役割と教育プラン



期待する役割



ビジネス アーキテクト

- ・デジタルを活用したビジネスを設計し、一貫した取組みの推進を通じて、設計したビジネスの実現に責任を持つ
- ・関係者をコーディネートし、関係者間の協働関係の構築をリードする



デザイナー

- ・顧客・ユーザー視点でのアプローチを、取組みの関係者が常に意識できるように導く
- ・倫理的観点を踏まえた顧客・ユーザーとの接点（製品・サービスと顧客・ユーザーとが関わるポイント）のデザインを行う



データ サイエンティスト

- ・自社や自組織の競争力向上につながるデータ活用を実現する
- ・DXにおけるデータ活用領域を担い、必要に応じて、他の人材類型と柔軟に連携する



ソフトウェア エンジニア

- ・高い技術力を通じて自社や自組織の競争力向上に貢献する
- ・変化の激しい状況の中でも、他のステークホルダーと柔軟に連携し、価値を生み出す
- ・自らの手で競争力のあるソフトウェアを創り出せる水準の高い技術力を維持・獲得する



サイバー セキュリティ

- ・DXによる価値提供とセキュリティ対策とのバランス確保を通じて自組織の戦略遂行に貢献する
- ・外部のサイバーセキュリティ専門事業者も活用しながら、兼務でも可能な範囲で担うべき業務を遂行
- ・他の人材類型と連携して、DX推進に伴うデジタル環境のリスクによる被害を抑制

教育プラン・主なコース

5日～

- ・高度ビジネス企画ワークショップ
- ・クラウド活用による業務変革ワークショップ
- ・DXプロジェクトマネジメント実践コース

3日～

- ・デジタルマーケティング・プランディング実践
- ・ユーザー調査実践

9日～

- ・機械学習実践コース
- ・ディープラーニングハンズオンコース
- ・データサイエンス実践コース

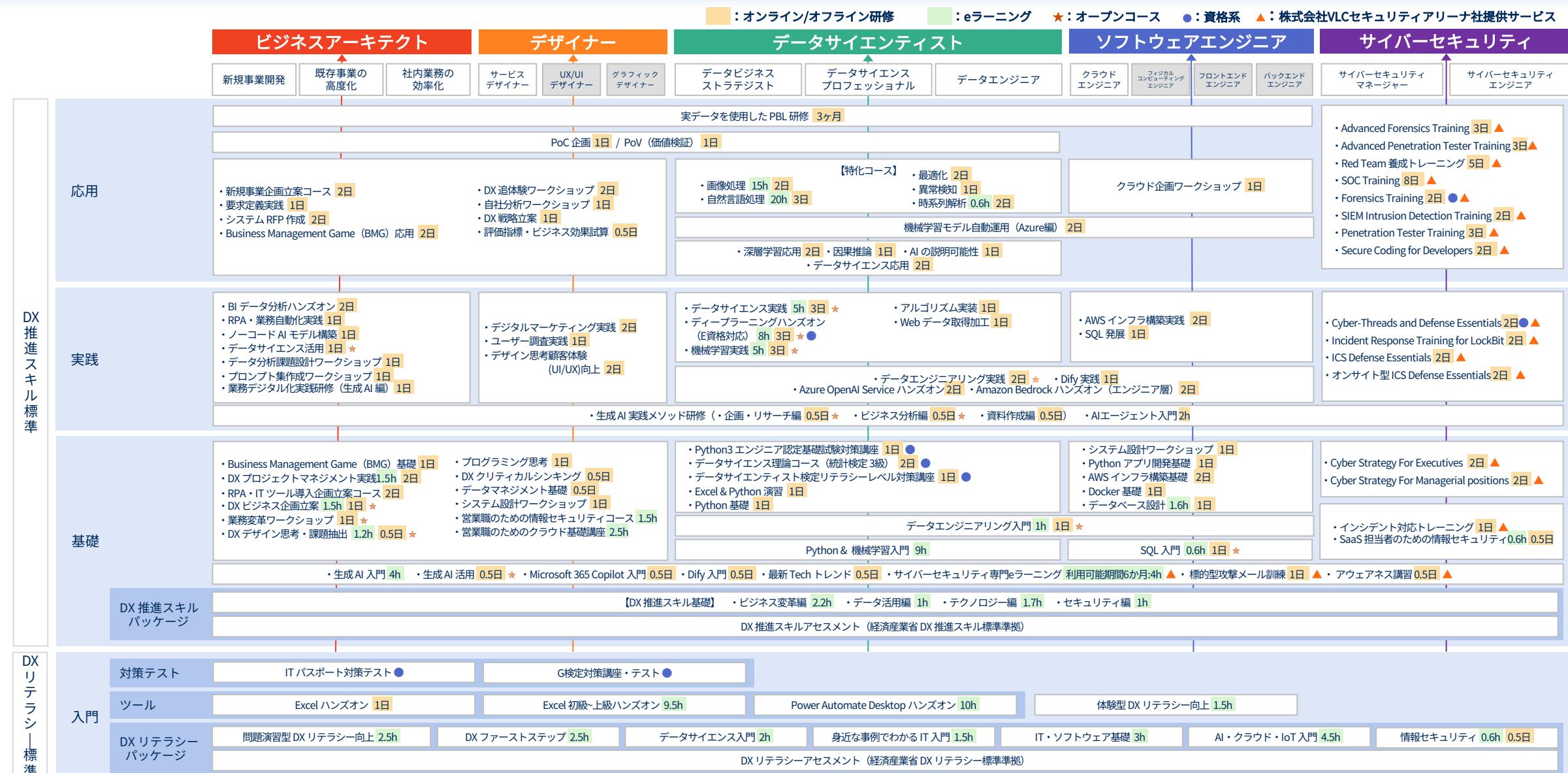
5日～

- ・SQL 入門コース
- ・データベース設計コース
- ・エンジニアのためのクラウド入門
- ・クラウド実践ハンズオン（クラウドネイティブ編）

2日～

- ・情報セキュリティコース
- ・SaaS担当者のためのセキュリティ概要

人材育成ロードマップ：デジタルスキル標準対応



キカガクはDX実現のためのすべてのフェーズをサポート



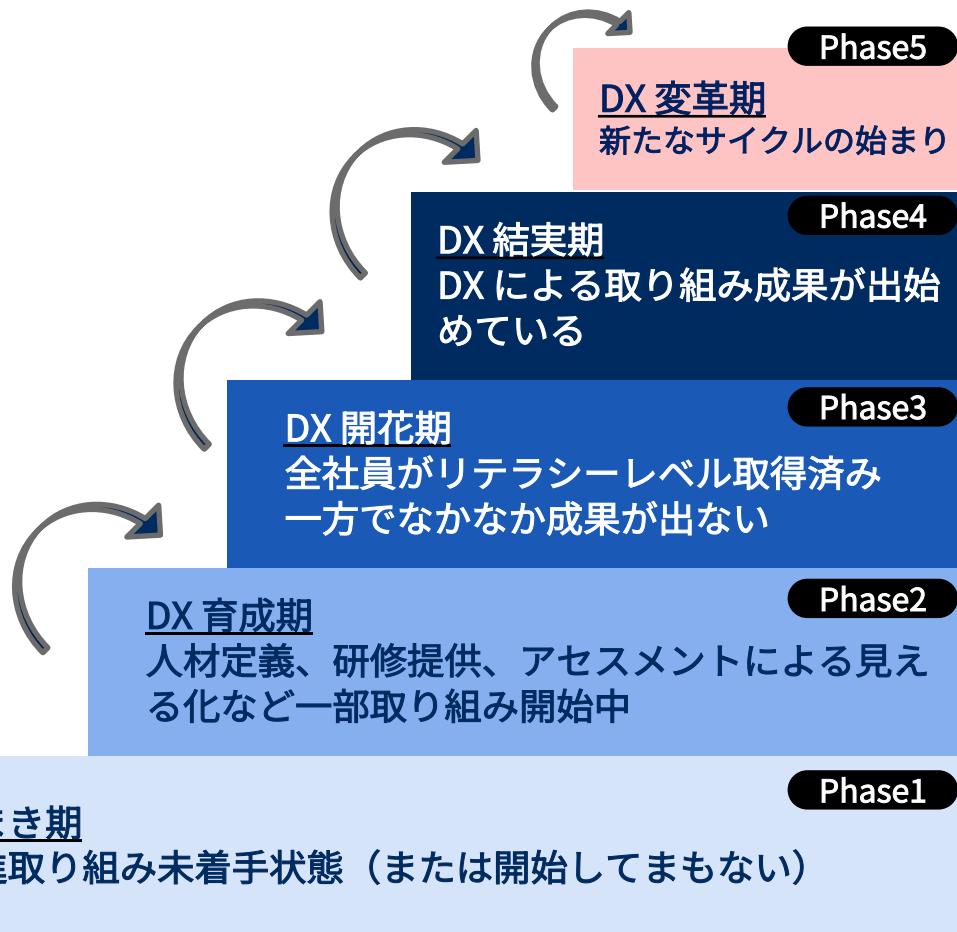
0. DX 推進について

効果的な DX 人材定義を策定するには、会社としてどのようにデジタルエクセレンスを達成していくのか
(=部門ごとの DX 戦略) 明確化が必要



企業のデジタル変革の段階と各フェーズにおける課題

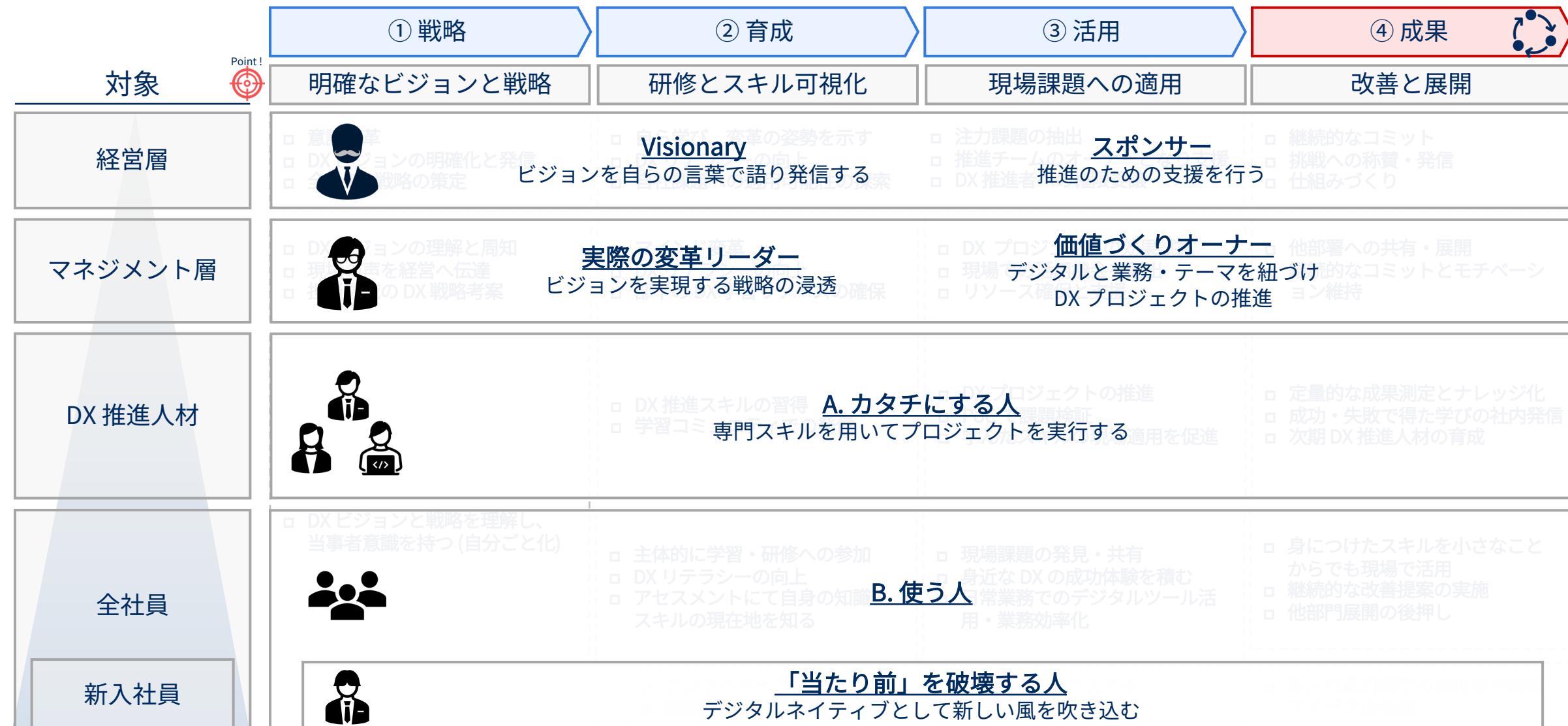
企業における DX 推進成熟度



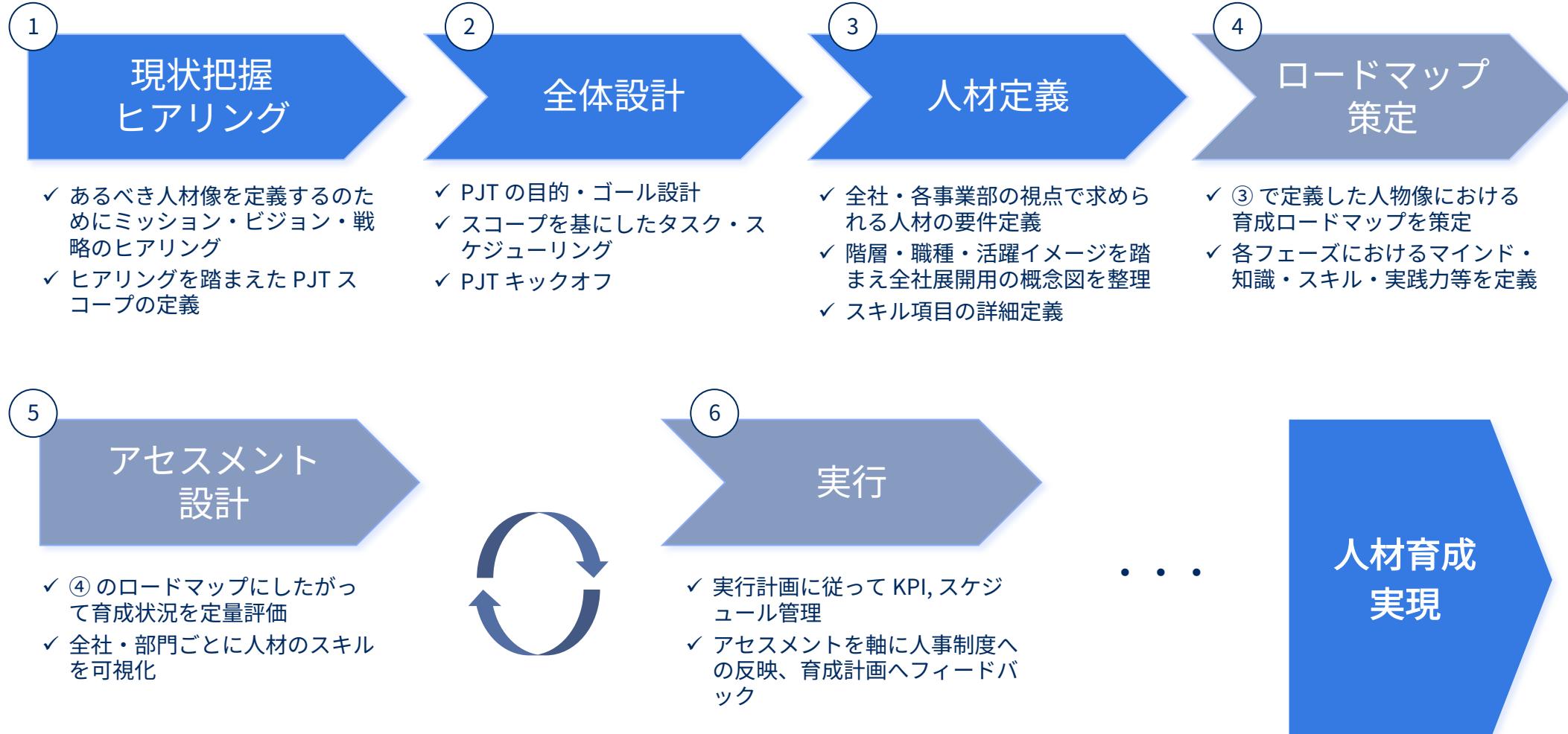
各フェーズにおけるよくある課題

- 自発的・自律的な DXへの取り組みは開始されているものの、一部業務の変革レベルに留まる
 - 継続的なイノベーションを推進することが難しい
-
- 全社員に対してデジタルリテラシーレベルは育成済みだが、なかなか成果につながらない
 - ビジネスアーキテクト人材の育成に課題感を感じている
-
- DX 人材類型定義に着手したものの、自社に合うタイプがわからない
 - 育成のためのロードマップやキャリアパス策定ができていない
-
- 経営層は無関心か、関心があっても具体的な取り組みに至っていない
 - DX 推進のために何から取り組めばよいかわからない状態

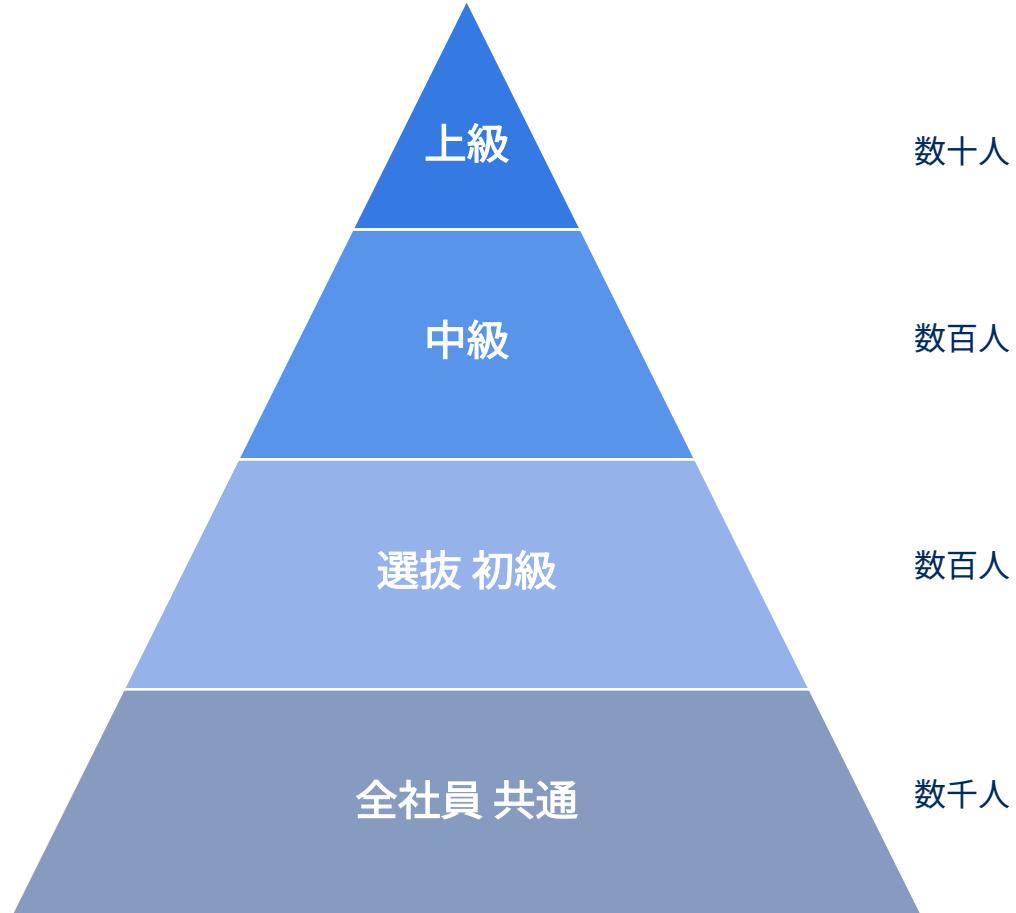
DX推進における各人材の主な役割



1. 人材育成計画策定



成果物イメージ（概念図）



	ビジネス プランナー	データサイエン ティスト	データ エンジニア
発展	…	…	…
応用	DXの知識を有しデジタルツールを活用できる。事業課題を整理し企画の立案からプロジェクト推進までリードできる人材	データ分析を行うための数学・統計の知識を有し、データサイエンスや機械学習などを用いてデータ活用を推進できる人材	データマネジメント・ガバナンスの考え方を理解している。社内外のデータを収集・蓄積・処理し、データの利活用を促進できる人材
基礎	…	…	…
リテラシー	IT・デジタルなどDXに欠かせない知識をインプットし、組織変革を図るためのDXリテラシーを有している。時代の潮流や業界事例を通じてDXの必要性や可能性を感じることができる。		

成果物イメージ（人材別詳細定義）



期待行動	世の中にあるシステムを活用し、業務改善ができる																																																																		
役割 主な業務	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 社内業務の課題と課題解決の目的を定義し、データやデジタル技術を活用した新たな業務プロセスの設計やプロセスを実行するための技術や手法・ツールの選定を行う ✓ 新たな業務プロセスの実現可能性、新たなプロセスによる課題解決の可否、ソリューションの有効性を検証し、計画の策定やソリューションの要件定義や実装を行う ✓ 顧客・ユーザーからのフィードバックやKPIのモニタリングを通じて、プロセスやソリューションの収益性を向上する施策（コストの削減等）を継続的に検討・実行する ✓ 構想から効果検証まで一貫して、関係者全体のコーディネート（必要なリソースの確保、チームの組成、適材適所を意識した偏りのないタスクの割り振り、関係者間の合意形成の促進等）を担う 																																																																		
必要なスキル	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>カテゴリー</th><th>サブカテゴリー</th><th>スキル項目</th><th></th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="10" style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">ビジネス変革</td><td rowspan="5" style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">戦略・マネジメント・システム</td><td>ビジネス戦略策定・実行</td><td>d</td></tr> <tr> <td>プロダクトマネジメント</td><td>d</td></tr> <tr> <td>変革マネジメント</td><td>c</td></tr> <tr> <td>システムエンジニアリング</td><td>c</td></tr> <tr> <td>エンダ-ツ-プライズアーキテクチャ</td><td>c</td></tr> <tr> <td rowspan="5" style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">ビジネスモデル・プロセス</td><td>プロジェクトマネジメント</td><td>b</td></tr> <tr> <td>ビジネス調査</td><td>c</td></tr> <tr> <td>ビジネスモデル設計</td><td>d</td></tr> <tr> <td>ビジネスアナリシス</td><td>c</td></tr> <tr> <td>検証（ビジネス視点）</td><td>c</td></tr> <tr> <td rowspan="5" style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">デザイン</td><td rowspan="5" style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">マークティング</td><td>マークティング</td><td>d</td></tr> <tr> <td>プランディング</td><td>d</td></tr> <tr> <td>顧客・ユーザー理解</td><td>c</td></tr> <tr> <td>価値発見・定義</td><td>c</td></tr> <tr> <td>設計</td><td>d</td></tr> <tr> <td rowspan="5" style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">データ・AIの戦略的活用</td><td rowspan="5" style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">検証（顧客・ユーザー視点）</td><td>検証（顧客・ユーザー視点）</td><td>c</td></tr> <tr> <td>その他デザイン技術</td><td>d</td></tr> <tr> <td>データ理解・活用</td><td>b</td></tr> <tr> <td>データ・AI活用戦略</td><td>c</td></tr> <tr> <td>データ・AI活用業務の設計・事業実装・評価</td><td>c</td></tr> <tr> <td rowspan="4" style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">AI・データサイエンス</td><td rowspan="4" style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">数理統計・多変量解析・データ可視化</td><td>数理統計・多変量解析・データ可視化</td><td>d</td></tr> <tr> <td>機械学習・深層学習</td><td>d</td></tr> <tr> <td>データ活用基盤設計</td><td>d</td></tr> <tr> <td>データ活用基盤実装・運用</td><td>d</td></tr> <tr> <td style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">データエンジニアリング</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>		カテゴリー	サブカテゴリー	スキル項目		ビジネス変革	戦略・マネジメント・システム	ビジネス戦略策定・実行	d	プロダクトマネジメント	d	変革マネジメント	c	システムエンジニアリング	c	エンダ-ツ-プライズアーキテクチャ	c	ビジネスモデル・プロセス	プロジェクトマネジメント	b	ビジネス調査	c	ビジネスモデル設計	d	ビジネスアナリシス	c	検証（ビジネス視点）	c	デザイン	マークティング	マークティング	d	プランディング	d	顧客・ユーザー理解	c	価値発見・定義	c	設計	d	データ・AIの戦略的活用	検証（顧客・ユーザー視点）	検証（顧客・ユーザー視点）	c	その他デザイン技術	d	データ理解・活用	b	データ・AI活用戦略	c	データ・AI活用業務の設計・事業実装・評価	c	AI・データサイエンス	数理統計・多変量解析・データ可視化	数理統計・多変量解析・データ可視化	d	機械学習・深層学習	d	データ活用基盤設計	d	データ活用基盤実装・運用	d	データエンジニアリング			
カテゴリー	サブカテゴリー	スキル項目																																																																	
ビジネス変革	戦略・マネジメント・システム	ビジネス戦略策定・実行	d																																																																
		プロダクトマネジメント	d																																																																
		変革マネジメント	c																																																																
		システムエンジニアリング	c																																																																
		エンダ-ツ-プライズアーキテクチャ	c																																																																
	ビジネスモデル・プロセス	プロジェクトマネジメント	b																																																																
		ビジネス調査	c																																																																
		ビジネスモデル設計	d																																																																
		ビジネスアナリシス	c																																																																
		検証（ビジネス視点）	c																																																																
デザイン	マークティング	マークティング	d																																																																
		プランディング	d																																																																
		顧客・ユーザー理解	c																																																																
		価値発見・定義	c																																																																
		設計	d																																																																
データ・AIの戦略的活用	検証（顧客・ユーザー視点）	検証（顧客・ユーザー視点）	c																																																																
		その他デザイン技術	d																																																																
		データ理解・活用	b																																																																
		データ・AI活用戦略	c																																																																
		データ・AI活用業務の設計・事業実装・評価	c																																																																
AI・データサイエンス	数理統計・多変量解析・データ可視化	数理統計・多変量解析・データ可視化	d																																																																
		機械学習・深層学習	d																																																																
		データ活用基盤設計	d																																																																
		データ活用基盤実装・運用	d																																																																
データエンジニアリング																																																																			
必要なスキル	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>カテゴリー</th><th>サブカテゴリー</th><th>スキル項目</th><th></th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="10" style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">デジタル</td><td rowspan="5" style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">ソフトウェア開発</td><td>コンピュータサイエンス</td><td>d</td></tr> <tr> <td>チーム開発</td><td>d</td></tr> <tr> <td>ソフトウェア設計手法</td><td>d</td></tr> <tr> <td>ソフトウェア開発プロセス</td><td>c</td></tr> <tr> <td>Webアプリケーション基本技術</td><td>d</td></tr> <tr> <td rowspan="5" style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">デジタルテクノロジー</td><td>フロントエンドシステム開発</td><td>d</td></tr> <tr> <td>バックエンドシステム開発</td><td>d</td></tr> <tr> <td>クラウドインフラ活用</td><td>d</td></tr> <tr> <td>SREプロセス</td><td>d</td></tr> <tr> <td>サーバレス活用</td><td>c</td></tr> <tr> <td rowspan="5" style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">セキュリティ</td><td rowspan="5" style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">フィジカルコンピューティング</td><td>フィジカルコンピューティング</td><td>c</td></tr> <tr> <td>その他先端技術</td><td>d</td></tr> <tr> <td>テクノロジトレンド</td><td>c</td></tr> <tr> <td>セキュリティ体制構築・運営</td><td>d</td></tr> <tr> <td>セキュリティマネジメント</td><td>c</td></tr> <tr> <td rowspan="4" style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">セキュリティ</td><td rowspan="4" style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">インシデント対応と事業継続</td><td>インシデント対応と事業継続</td><td>c</td></tr> <tr> <td>プライバシー保護</td><td>b</td></tr> <tr> <td>セキュリティ設計・開発・構築</td><td>d</td></tr> <tr> <td>セキュリティ運用・保守・監視</td><td>d</td></tr> <tr> <td rowspan="6" style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">パースキルナル</td><td rowspan="3" style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">ヒューマンスキル</td><td>リーダーシップ</td><td>a</td></tr> <tr> <td>コラボレーション</td><td>b</td></tr> <tr> <td>ゴール設定</td><td>a</td></tr> <tr> <td rowspan="3" style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">コンセプチュアルスキル</td><td>創造的な問題解決</td><td>b</td></tr> <tr> <td>批判的思考</td><td>a</td></tr> <tr> <td>適応力</td><td>b</td></tr> </tbody> </table>		カテゴリー	サブカテゴリー	スキル項目		デジタル	ソフトウェア開発	コンピュータサイエンス	d	チーム開発	d	ソフトウェア設計手法	d	ソフトウェア開発プロセス	c	Webアプリケーション基本技術	d	デジタルテクノロジー	フロントエンドシステム開発	d	バックエンドシステム開発	d	クラウドインフラ活用	d	SREプロセス	d	サーバレス活用	c	セキュリティ	フィジカルコンピューティング	フィジカルコンピューティング	c	その他先端技術	d	テクノロジトレンド	c	セキュリティ体制構築・運営	d	セキュリティマネジメント	c	セキュリティ	インシデント対応と事業継続	インシデント対応と事業継続	c	プライバシー保護	b	セキュリティ設計・開発・構築	d	セキュリティ運用・保守・監視	d	パースキルナル	ヒューマンスキル	リーダーシップ	a	コラボレーション	b	ゴール設定	a	コンセプチュアルスキル	創造的な問題解決	b	批判的思考	a	適応力	b	
カテゴリー	サブカテゴリー	スキル項目																																																																	
デジタル	ソフトウェア開発	コンピュータサイエンス	d																																																																
		チーム開発	d																																																																
		ソフトウェア設計手法	d																																																																
		ソフトウェア開発プロセス	c																																																																
		Webアプリケーション基本技術	d																																																																
	デジタルテクノロジー	フロントエンドシステム開発	d																																																																
		バックエンドシステム開発	d																																																																
		クラウドインフラ活用	d																																																																
		SREプロセス	d																																																																
		サーバレス活用	c																																																																
セキュリティ	フィジカルコンピューティング	フィジカルコンピューティング	c																																																																
		その他先端技術	d																																																																
		テクノロジトレンド	c																																																																
		セキュリティ体制構築・運営	d																																																																
		セキュリティマネジメント	c																																																																
セキュリティ	インシデント対応と事業継続	インシデント対応と事業継続	c																																																																
		プライバシー保護	b																																																																
		セキュリティ設計・開発・構築	d																																																																
		セキュリティ運用・保守・監視	d																																																																
パースキルナル	ヒューマンスキル	リーダーシップ	a																																																																
		コラボレーション	b																																																																
		ゴール設定	a																																																																
	コンセプチュアルスキル	創造的な問題解決	b																																																																
		批判的思考	a																																																																
		適応力	b																																																																

2. e ラーニング・アセスメント

DX人材ラーニング・アセスメントプラットフォーム



The screenshot displays two main sections of the platform:

- 学習画面 (Study Dashboard):** This section shows a learning module titled "データサイエンスセクション" (Data Science Section). It includes a bar chart titled "集計・可視化" (Aggregation, Visualization) and a scatter plot titled "分析手法" (Analysis Methods). A large blue box highlights the "学習画面" (Study Dashboard) area.
- 管理画面 (Management Dashboard):** This section shows a course management interface for "Python&機械学習入門". It features a "受講コース一覧" (List of Enrolled Courses) with a red arrow pointing to it. Below it is a "動画/テストの完了数を可視化" (Visualize completion of video/test) section. Further down are sections for "セッション" (Sessions), "コース別スケジュール" (Course-specific schedule), and "修了コース" (Completed courses).

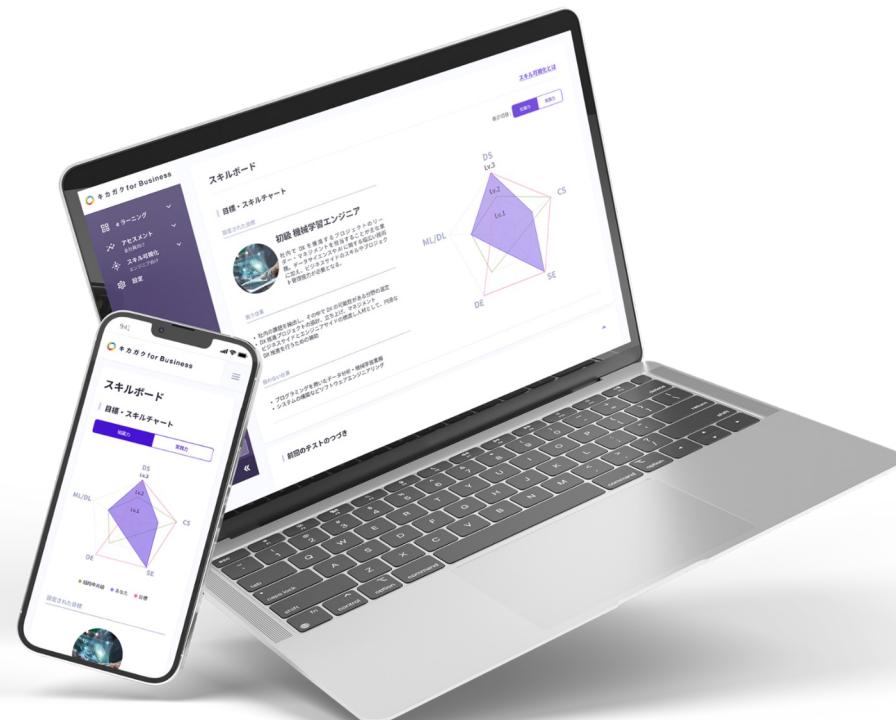
AI人材育成 特別部門賞受賞



企業DX人材育成 特別部門賞受賞



DX人材育成 特別部門賞受賞



全社員向け DX リテラシー アセスメント



アセスメント結果

キカガク for Business

採点結果

成績

総合得点	満点率	ランク
72 点 / 72 点	100%	SS

比較:

組合せ	個別	組織					
総合得点	マイグレーディング	DXの背景					
組合せ得点	データ	データ活用					
組合せ得点	デジタル	デジタル活用					
組合せ得点	活用方法	活用方法・事例					
組合せ得点	実習	実習点					
あなた	72 / 72	14 / 14	6 / 6	16 / 16	16 / 16	8 / 8	12 / 12
5社	21 / 72	6 / 14	1 / 6	5 / 16	3 / 16	2 / 8	4 / 12
グループ	29 / 72	7 / 14	2 / 6	6 / 16	6 / 16	3 / 8	5 / 12

すべての解答は、右の「解答を見る」ボタンからご確認いただけます。

成績詳細

マインドスタンス 13/14

顧客・ユーザーへの共感 | 1/2

Q.01 当てはまると感じるものを1つ選択し、回答してください。
DXに関する知識を習得するために自身でウェビナーの参加、書籍の購入、e ラーニングの受講などを通して学習を行っている。

非常にあてはまる
 あてはまる
 どちらともいえない
 あてはまらない
 全くあてはまらない

× 不正解

Q.02 当てはまると感じるものを1つ選択し、回答してください。
DXに関する知識を習得するために自身でウェビナーの参加、書籍の購入、e ラーニングの受講などを通して学習を行っている。

非常にあてはまる
 あてはまる
 どちらともいえない
 あてはまらない
 全くあてはまらない

正解

常にじらわれない営業 | 2/2

反復的なアプローチ | 2/2

変化への適応 | 2/2

コラボレーション | 2/2

柔軟な意思決定 | 2/2

事に基づく判断 | 2/2

Why | 6/6

キカガク for Business

テスト受検

マインドスタンス > 変化への対応

Q.02 当てはまると感じるものを1つ選択し、回答してください。
DXに関する知識を習得するために自身でウェビナーの参加、書籍の購入、e ラーニングの受講などを通して学習を行っている。

非常にあてはまる
 あてはまる
 どちらともいえない
 あてはまらない
 全くあてはまらない

解答する

9:41

キカガク for Business

テスト受検

マインドスタンス > 変化への対応

7% 完了 (2/36問中)

Q.02 当てはまると感じるものを1つ選択し、回答してください。
DXに関する知識を習得するために自身でウェビナーの参加、書籍の購入、e ラーニングの受講などを通して学習を行っている。

非常にあてはまる
 あてはまる
 どちらともいえない
 あてはまらない
 全くあてはまらない

解答する

経産省「DXリテラシー標準」準拠
知識力・思考力・マインドセットを定量評価

©2017-2026 kikagaku, Inc. All Rights Reserved.

19

推進人材向け DX 推進スキルアセスメント



ダッシュボード

キカガク for Business ダッシュボード

探点結果

成績 ●
総合得点 汎用率 100% ランク SS
48 点 / 48 点

比較：個人得点 グループ 得点

項目	個人得点	ビジネス実務	データ活用	テクノロジー	セキュリティ	パーソナルスキル
あなたの	48/48	12/12	12/12	8/8	8/8	8/8
SRI	12/48	3/12	3/12	2/8	3/8	1/8
グループ	15/48	3/12	3/12	3/8	4/8	2/8

職務傾向
混合高 ○ 混合低

職種	混合高	混合低
ビジネスアーキテクト (社内業務の高度・柔軟性)	○	○
デザイナー	○	○
データサイエンティスト	○	○
ソフトウェアエンジニア	○	○
サイバーセキュリティ	○	○

すべての解答は、左の「解答を見る」ボタンからご確認いただけます。

成績詳細
ビジネス変革 4/12
顧客・マネジメント・システム 3/4

Q.01 当てはまると思うものを1つ選択し、解答してください。
DXに関する知識を獲得するために自身でウェビナーの参加、書籍の購入、eラーニングの受講などを通じて学習を行っている。
 非常に当てはまる
 どちらともいえない
 あてはまらない
 全くあてはまらない

Q.02 当てはまると思うものを1つ選択し、解答してください。
DXに関する知識を獲得するために自身でウェビナーの参加、書籍の購入、eラーニングの受講などを通じて学習を行っている。
 非常に当てはまる
 あてはまらない
 どちらともいえない
 全くあてはまらない

ビジネスモデル・プロセス | 2/2
デザイン | 2/2
変化への適応 | 2/2
コラボレーション | 2/2
倫理的な意思決定 | 2/2
事実に基づく判断 | 2/2
Why | 6/6

テスト概要

キカガク for Business テスト受検

残り 1:00 中断する

ビジネス変革 > 戦略・マネジメント・システム
0%完了 (1/24問中)

Q.01 企業の全ての部門や機能を統合することで業務フローを効率化し、情報の共有を容易にするシステムとして、最も最適なものを選べ。

CRM
 ERP
 PLM
 SCM

解答する

テスト概要

キカガク for Business テスト受検

残り 1:00 中断する

ビジネス変革 > 戦略・マネジメント・システム
0%完了 (1/24問中)

Q.01 企業の全ての部門や機能を統合することで業務フローを効率化し、情報の共有を容易にするシステムとして、最も最適なものを選べ。

CRM
 ERP
 PLM
 SCM

解答する

経産省「DX推進スキル標準」準拠
ビジネス変革・データ活用・テクノロジー・
セキュリティ・パーソナルスキルを定量評価

機能紹介① アセスメント後のレコメンド



- ✓ 個々人のアセスメント結果をもとに、おすすめの e ラーニングを提案
- ✓ ダッシュボード画面に進歩率を表示
- ✓ 一覧画面、リマインダー機能も用意

キカガク for Business

採点結果

成績 ①

総合得点 正答率 100% ランク ① SS

比較：組織・グループ 回数

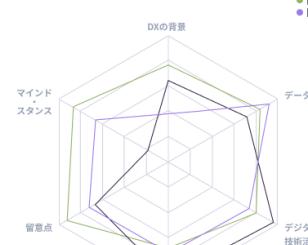
	総合得点	マインド・スタンス	DXの背景理解	データ	デジタル技術	活用方法・事例	留意点
あなた	72 / 72	5.8 / 14	1.8 / 6	5.5 / 16	5.7 / 16	3.5 / 8	4.8 / 12
ここに所属する企業	21 / 72	6 / 14	1.5 / 6	5 / 16	3 / 16	2.5 / 8	3 / 12
ここに所属するグループ	29.8 / 72	7 / 14	2 / 6	6.2 / 16	6 / 16	3.6 / 8	5 / 12

アセスメント結果の傾向から、あなたにおすすめの学習コンテンツを見る [アセスメントおすすめを受講](#)

成績詳細

マインド・スタンス | 12 / 14

顧客・ユーザーへの共感 | 1 / 2



キカガク for Business

採点結果

成績 ①

比較：組織・グループ 回数

アセスメントおすすめコンテンツ一覧

下記のリストから学習項目を押下すると、選択された学習画面に遷移します。

コース/セクション	進歩
DXリテラシー標準アセスメント対応コース / DXで活用されるデータ	○
社会におけるデータ（動画）	○
社会におけるデータ（テスト）	○
DXリテラシー標準アセスメント対応コース / DXで活用される技術	○
AI（動画）	○
AI（テスト）	○
クラウド（動画）	○
クラウド（テスト）	○

DXの背景
データ
デジタル技術
活用方法・事例



機能紹介 ② 業界比較

- ✓ 自社内での比較だけでなく、業界比較による客観的に現在地の把握が可能
- ✓ 業界レベルを認識したうえで育成方針の策定



閲覧可能な業界

閲覧可能な業界は会社が所属する業界と全業界
現在、管理画面上で平均点、トップ企業を確認できる
業界は以下（※ 順次業界追加）

- ・サービス・インフラ
- ・製造業
- ・商社
- ・ソフトウェア・通信
- ・広告・マスコミ
- ・金融
- ・官公庁・公社・団体

※ 本機能により、アセスメントご利用の企業名が他
社に伝わることはございません。

※ DXリテラシーアセスメントのみの機能となります。

経産省「DXリテラシー標準」に準拠し、知識力・思考力・マインドセットを定量評価するアセスメント

活用事例パターン

① 企業のDXリテラシー合格基準として活用

経産省の定めた日本企業に求められるDXリテラシーの基準に準拠していることから、各企業のリテラシー合格ラインの基準としてご活用いただく事例

② DX研修の効果測定として活用

全社DX / デジタル研修から階層別研修や部署別研修等、DX人材育成研修の効果測定として実施前、実施後の成長率を可視化する目的でのご活用事例

③ メンバー選抜の基準として活用

選抜DX / デジタル研修の受講生選抜・社内DXプロジェクト配属メンバー選抜・未経験エンジニア育成メンバーの選抜基準としてご活用いただく事例

企業事例

✓ 自動車部品製造メーカー（社員規模15,000名）

✓ 大手印刷メーカー（社員規模40,000名）

✓ 大手食品サービス企業（社員規模7,000名）

✓ 建設機械メーカー（社員規模60,000名）

✓ 大手素材メーカー（社員規模30,000名）

✓ オフィス機器メーカー（社員規模2,000名）

✓ デジタルマーケティング企業（社員規模50,000名）

✓ バッテリー製造メーカー（社員規模20,000名）

✓ Sler企業（社員規模200名）

3. カスタマイズ研修

ポイント1

講義力・講師力に長けた
教えるプロ人材を登用

業界認定講座多数



経済産業省
Ministry of Economy, Trade and Industry



厚生労働省
Ministry of Health Labour and Welfare



一般社団法人 日本メディカルAI学会
Japanese Association for Medical Artificial Intelligence



未来型医療創造卓越大学院プログラム
Advanced Graduate Program for Future Medicine and Health Care



ポイント2

講座制作の全工程を内製化
企業に合わせてカスタマイズ

The grid contains logos categorized by industry:

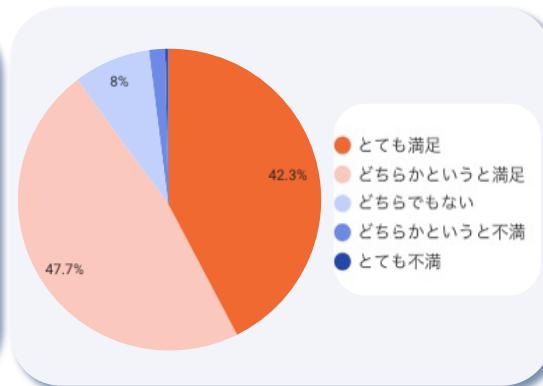
- 自動車・製造業・メーカー**: TOYOTA, FUJIFILM, 住友ゴム, DNP 大日本印刷, 住友重機械, KONICA MINOLTA, 富士電機, muRata, SEGASammy, RICOH, ITOKI, YANMAR, OKI, IHI, Panasonic, YASKAWA.
- 小売・食品**: SAPPORO, セブン-イレブン, dai-ichi House, TRIAL.
- 運輸・建設・電力ガス**: Seibu Holdings, 清水建設, ヤマトグループ, SHIZGAS, TOKYO GAS, 四国電力.
- 金融・保険**: MIZUHO, Quick, 百十四銀行, アコム, Prudential, 山陽中央銀行.
- 公共・大学**: 経済産業省, NCT, JMAI, 日本メディカルAI学会.
- その他**: mercari, JDA, A TEAM, ABEJA, DMM.com, OLBA HEALTHCARE.
- IT・情報通信・Sler**: Microsoft, NTT DATA, NTTテクノクロス, OPTAGE, SCSK, 電通総研, TIECH, TPEC, 東芝デジタルエンジニアリング株式会社, 株式会社 日立ソリューションズ・クリエイト.

教育のプロフェッショナルである内製講師と実践経験豊富な認定パートナー講師が
それぞれの強みを融合し、ご受講生の成長と実践力向上を実現



豊富な講師数

100人以上



受講生満足度

90%

※ 人数：キカガクの講師育成プログラムを受けた認定パートナー講師を含む
※ 満足度：パートナー講師と内製講師を含むアンケート評価の肯定回答数割合（5段階）

講師・コンサルタント紹介



研修事業部技術統括マネージャー / DX コンサルタント

大手自動車メーカー様、人材育成プロジェクトのマネージャーや大手通信事業会社様のDX人材認定制度コンサルタントなどを担当。経営層、部長職セミナー等、登壇実績多数。



教育コンサルティング部門リーダー / DX コンサルタント

講師チームリーダー及び講師として登壇、教材開発等に従事。製造業を中心に複数業界の大手企業様へ深層学習・データサイエンス領域 / DXの企画立案や等ビジネス人材向け研修の登壇実績多数。



キカガク認定パートナー講師

大手通信会社にて新規事業開発に従事し、その後AIコンサルを経験。キカガクにて生成AIや新規事業企画立案など、ビジネスアーキテクト領域の研修に登壇。CompTIA A+や技術系資格を複数保持。

研修を研修で終わらせない「カスタマイズ研修」



株式会社西武ホールディングス様



- 主要なグループ会社におけるDXリテラシーの現状把握から底上げ、さらに社内データの利活用を進めるための人財育成
 - DX人財を育成する上で、DXリテラシーの現状把握をしたい
 - 自分ごと化に繋がるeラーニングを導入したい
 - データ起点で考え、実務に繋がる研修を実施したい
 - アセスメントで、DXリテラシーの現状の明確化
 - 自社事例を入れたカスタマイズeラーニングが社内一の再生数に
 - 実課題×実データワークショップで、実際に取り組む施策立案

実課題×実データで、実際に取り組む施策を立案

ワークショップで実データを使用した背景はありますか？

渡邊様：

一般的な研修の課題として、サンプルデータでは疑似体験はできても、実際のデータを使わないと実務での活用に繋がらないことがあると思います。

つまり、**自身の業務に使えるかもしれないデータの存在と価値を知り、実際にそれを活用して具体的な施策まで立案することで、すぐに実務でも使えるイメージを持ってもらいたい**という背景でした。

まず私達から、どんなテーマで、どんな内容にすればよいかのイメージを共有させて頂きました。

そこから、活用できるデータ、追加で必要なデータ、具体的なデータ分析やその解釈、適切な研修時間の設計や解説する項目の意味付け、そして最終的なアウトプットの形など、**研修設計の視点や受講生の視点も踏まえ、具体的な研修に落とし込んで下さいました。**

数値化やビジュアル化で現状を正しく把握できるアセスメント

アセスメントをキカガクに決めた背景等を教えてください。

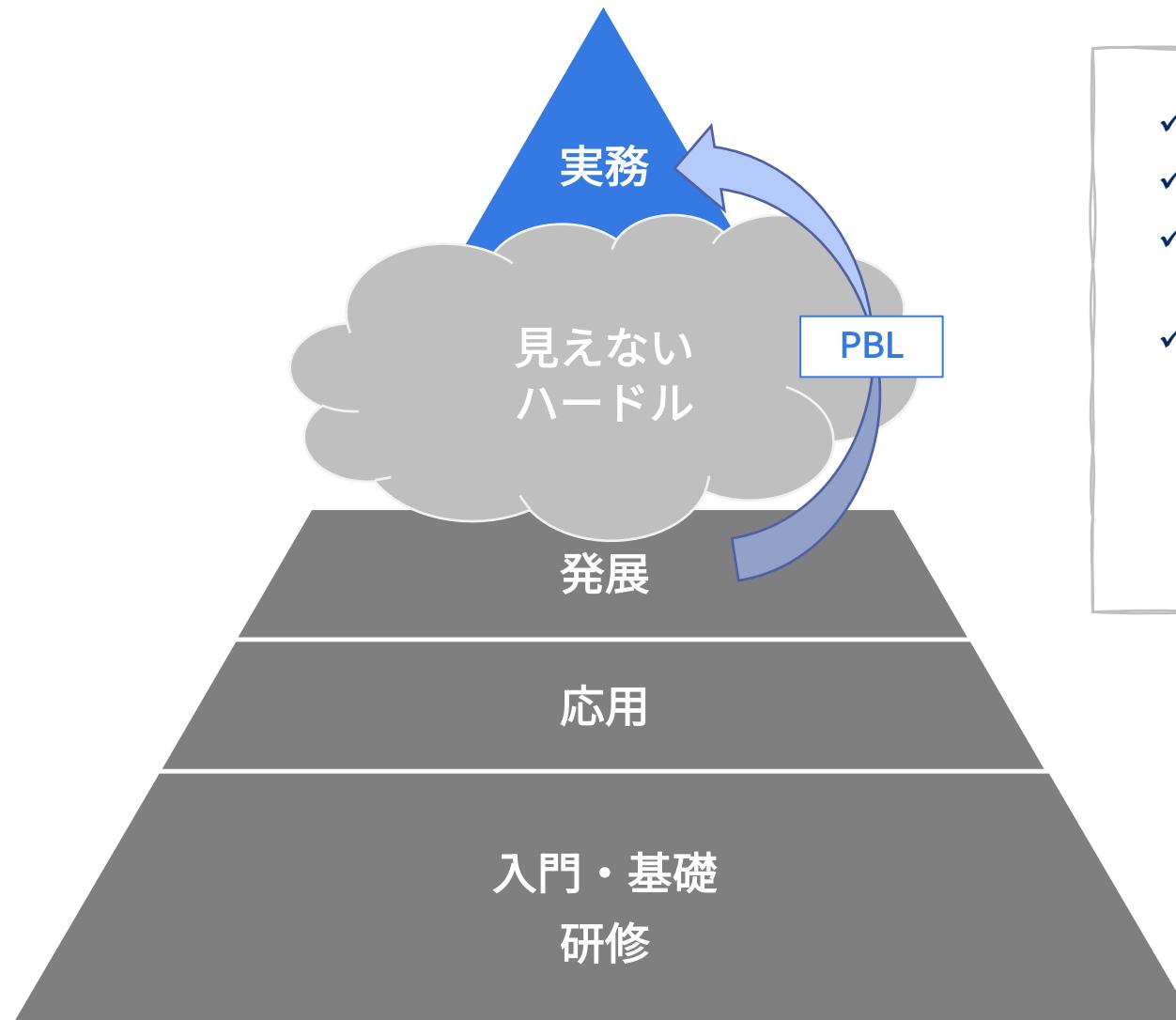
田口様：

まず大前提として、**DXリテラシー標準に準拠したアセスメントを探していました。**その中で、知識だけでなくマインド面も測定できたり、**カテゴリーごとに問題が設定されており、ランダムに問題が出るところも他社と比較し高評価でした。**

館岡様：

本アセスメントでは、**自社の結果が定量値やビジュアルでわかるだけでなく、全受験企業の平均との比較や同業界での比較などから自社のリアルな現状がわかるので、注力しないといけないという危機感や、どこに注力すればよいのかが明確になる**ことに感銘を受けました。

4. 課題解決型 PBL 研修



- ✓ どんな課題に取り組めばいいかわからない
- ✓ 一人での実施が不安、サポートがほしい
- ✓ プロジェクト推進に他部署や上長の承認が必要
時間と心理的コストがかかる
- ✓ データの取得や環境構築がうまく行かず、最初の一歩目が踏み出せない

学んだ内容も忘れ、モチベーションが低下
研修を受けただけで終わってしまう



受講生

課題解決型研修 (PBL) を実施
育成プログラム内で実務に適用

PBL 実施ステップ



課題の概要について	課題の概要を記載ください	課題の詳細を記載ください	その場面においては社内で取り組んだ実験などがあれば記載ください。
使用するデータについて	どのようなデータを使用する想定を記載してください データはすぐに手に入れる状況にあるか、ある場合は必要なことをどの程度か記載ください。		
ご自身のスキルについて	研究実験までのデータサイエンス・機械学習基礎の知識についてどの程度あったか教えて下さい。 研究項目までのプログラミング経験はどの程度であったか教えて下さい。 研究期間において、おおよそ専用時間課題に取り組めそうか記載してください。		
お願い	PBL 初回実施日程までに、取り組む課題の詳細がわかる資料をご準備ください。		

Step.1 課題ヒアリング・テーマ選定

- 受講生が現場の課題を持ち寄り、それに対し弊社コンサルタントがフィードバック
- 実現可能性、有用性、経済性等の観点から課題に優先度をつける
- 取り組むテーマや受講生の知識・技術レベルに応じて、必要であれば追加のインプットを提案

11月前半	11月後半	12月前半	12月後半	1月
データの収集、分析結果が得られるまでにかかる期間を算出し、それをもとに、どのくらいの期間で取り組んでほしい状況	データの収集と分析結果を出力するまでの期間を算出し、それをもとに、どのくらいの期間で取り組んでほしい状況	データの収集と分析結果を出力するまでの期間を算出し、それをもとに、どのくらいの期間で取り組んでほしい状況	データの収集と分析結果を出力するまでの期間を算出し、それをもとに、どのくらいの期間で取り組んでほしい状況	データの収集と分析結果を出力するまでの期間を算出し、それをもとに、どのくらいの期間で取り組んでほしい状況
分担課題の進め方の確認、どの程度の精度で結果を出力するかの確認	にててどの程度の精度で結果を出力するかの確認	にててどの程度の精度で結果を出力するかの確認	にててどの程度の精度で結果を出力するかの確認	にててどの程度の精度で結果を出力するかの確認
どのような情報を用いるかの確認	にててどのような情報を用いるかの確認	にててどのような情報を用いるかの確認	にててどのような情報を用いるかの確認	にててどのような情報を用いるかの確認
データを用いた実験の実施	にててデータを用いた実験の実施	にててデータを用いた実験の実施	にててデータを用いた実験の実施	にててデータを用いた実験の実施
分析結果の提出	にてて分析結果の提出	にてて分析結果の提出	にてて分析結果の提出	にてて分析結果の提出
問題点の確認	にてて問題点の確認	にてて問題点の確認	にてて問題点の確認	にてて問題点の確認
実験結果の確認	にてて実験結果の確認	にてて実験結果の確認	にてて実験結果の確認	にてて実験結果の確認
データの可視化	にててデータの可視化	にててデータの可視化	にててデータの可視化	にててデータの可視化
データの可視化を行うためのデータ加工	にててデータの可視化を行うためのデータ加工	にててデータの可視化を行うためのデータ加工	にててデータの可視化を行うためのデータ加工	にててデータの可視化を行うためのデータ加工
データを扱う必要な実験環境の整備	にててデータを扱う必要な実験環境の整備	にててデータを扱う必要な実験環境の整備	にててデータを扱う必要な実験環境の整備	にててデータを扱う必要な実験環境の整備
自ら実験	にてて自ら実験	にてて自ら実験	にてて自ら実験	にてて自ら実験

Step.2 実行計画書の策定

- テーマが決まり次第、実行計画書の策定を行う
- 全体スケジュールに対し、いつまでに何を行うかどんな状態が望ましいのかを定義
- PoC 設計に関しては弊社コンサルタントのフィードバックを得ながら進め方や技術的な方針を決定

結論	試した施策や取り組みから最終的な得られた結論を記載
分析の枠組み	分析の枠組み 分析の目的や流れや、どのような目的を持って分析を進めたか記載 行った分析全体の前提条件や大体の仮説などがあればそちらも記載
原因・背景	原因・背景 データ・分析手法・分析結果を「エッフ」として記載してください。 分析結果に対して、逐条両方のいいものから順序に記載して下さい。 こちらにはまずの分析についての原因・仮説を記載します。Ex) ホテルの満足度に影響する要因を調べるために可視化を行った
分析詳細	分析詳細 用いたデータについて記載する。 統計についても重要なものについて記載します。 Ex) ホテルに宿泊した顧客からのアンケート結果

Step.3 実施・成果報告

- 実行計画に沿って、環境構築・データ取得・加工・前処理・分析・モデル構築・検証等を行う
- 疑問・質問はチャットサポートやメンタリング時間を利用して解決 (QA は取りまとめて全体へ共有)
- 弊社コンサルタントはあくまでサポートに徹するため、受講生の問題解決力・自走力が求められる
- 試行錯誤した結果はレポートにまとめ最終的な成果物として発表

PBL 運営フロー・スケジュール



□ : 成果物

メンタリング

中間報告

最終報告

		PBL 1ヶ月目				PBL 2ヶ月目				PBL 3ヶ月目			
		1w	2w	3w	4w	1w	2w	3w	4w	1w	2w	3w	4w
① 企画・構想	<ul style="list-style-type: none"> ■ テーマアップ ■ PoC設計 ■ スケジューリング 	#											
② 環境構築	<ul style="list-style-type: none"> ■ 仕様ツール選定 ■ 仮想マシン立ち上げ等 		#										
③ データ収集	<ul style="list-style-type: none"> ■ データ量・質の確保 			#									
④ データ前処理	<ul style="list-style-type: none"> ■ データ加工 ■ 特徴量抽出 				#								
⑤ 分析・モデル構築	<ul style="list-style-type: none"> ■ 分析・調査 ■ アルゴリズム検討 					#	#	#	#				
⑥ 検証	<ul style="list-style-type: none"> ■ モデル精度改善 ■ プロトタイプ構築 									#	#	#	
⑦ 成果報告	<ul style="list-style-type: none"> ■ レポート作成 ■ 発表 											#	

・成果報告レポート

5. 受託開発・コンサルティング

DX・AI の力でビジネス成果の創出を支援

AI システム開発



課題整理のコンサルティングから、PoC、本番モデル開発、システム実装までを一気通貫してサポートします。

データ分析・活用



データ分析から課題発見・施策提案を行います。
統計、数理最適化、効果検証など幅広い分野に対応可能です。

データ分析基盤構築



データの収集、蓄積、分析までのデータ基盤の構築を行います。
Azure, AWS, GCP のどのクラウドサービスにも対応可能です。

ChatGPT/AOAI 導入支援



ChatGPT/Azure OpenAI Service の導入からシステムの実装、導入後のコンサルティングまで一気通貫でサポートします。

事例紹介：AI システム開発、データ分析・活用

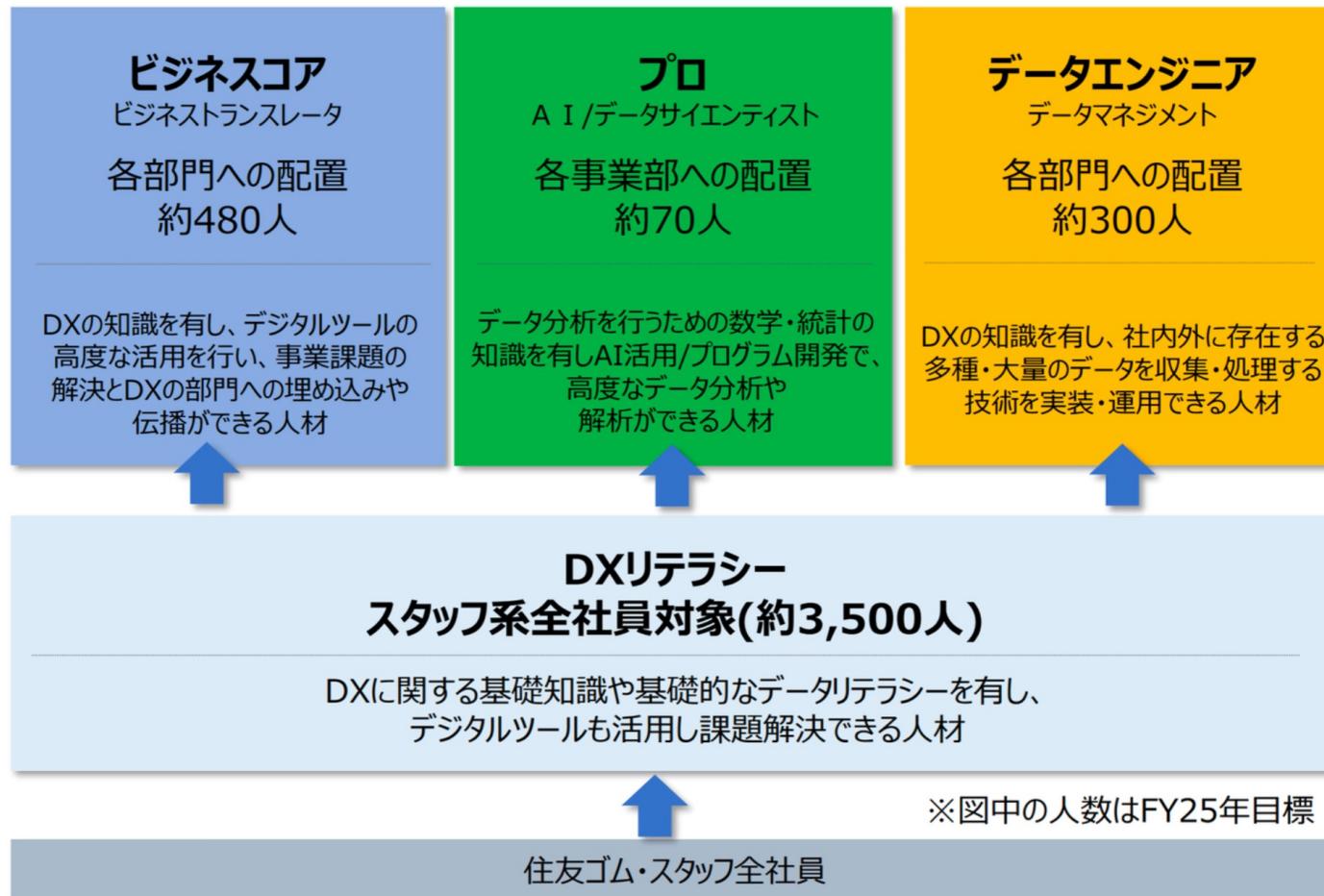


	予測 / 分析	画像解析	言語解析	最適化	その他
運輸 / 物流 / 運送 / 資源 / エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> 需要予測 	<ul style="list-style-type: none"> 運転手眠気推定 		<ul style="list-style-type: none"> 配送ルート 電力供給 	
製造 / 自動車 / 精密機器 / 重工機械 / 造船 / 素材	<ul style="list-style-type: none"> 需要 / 流入量予測 異常検知 コスト予測 	<ul style="list-style-type: none"> 異常検知 作業動画解析 対象物トラッキング OCR ネイティブアプリ 	<ul style="list-style-type: none"> 社内文書仕分け 類似文書検索 チャットボット 	<ul style="list-style-type: none"> 生産計画 在庫管理 人員配置 機器パラメータ 	
金融 / 保険 / 証券	<ul style="list-style-type: none"> 与信審査 				
医療 / 医薬品 / 医療機器	<ul style="list-style-type: none"> 病状診断 HD 治療血圧低下予測 遺伝子情報配列解析 心電図不整脈診断 	<ul style="list-style-type: none"> MRI 画像 セグメンテーション 細胞検出 			
小売 / 食品	<ul style="list-style-type: none"> 需要 / 流入量 / 来客予測 市場価格予測 ライフスタイル分析 レコメンド 来客予測 	<ul style="list-style-type: none"> レシート OCR 	<ul style="list-style-type: none"> 文字列マッチング (類似文検索) レビュー分析 	<ul style="list-style-type: none"> 在庫管理 	
情報通信 / SaaS / インターネット	<ul style="list-style-type: none"> チャットログ分析 ワークエンゲージメント 予測 人流データ解析 		<ul style="list-style-type: none"> チャットボット 		
その他	<ul style="list-style-type: none"> 離職予測 センサス分析 要因・関連分析 	<ul style="list-style-type: none"> エッジカメラ 衛生画像処理 顔 / 物体検知 姿勢推定 	<ul style="list-style-type: none"> LLM 連携 機械翻訳サービス 文章クラスタリング テキスト要約 ネガポジ解析 	<ul style="list-style-type: none"> HR データ解析 広告、プロモーション 	<ul style="list-style-type: none"> LMS 開発 Webアンケート システム構築

事例紹介

DX人材構成

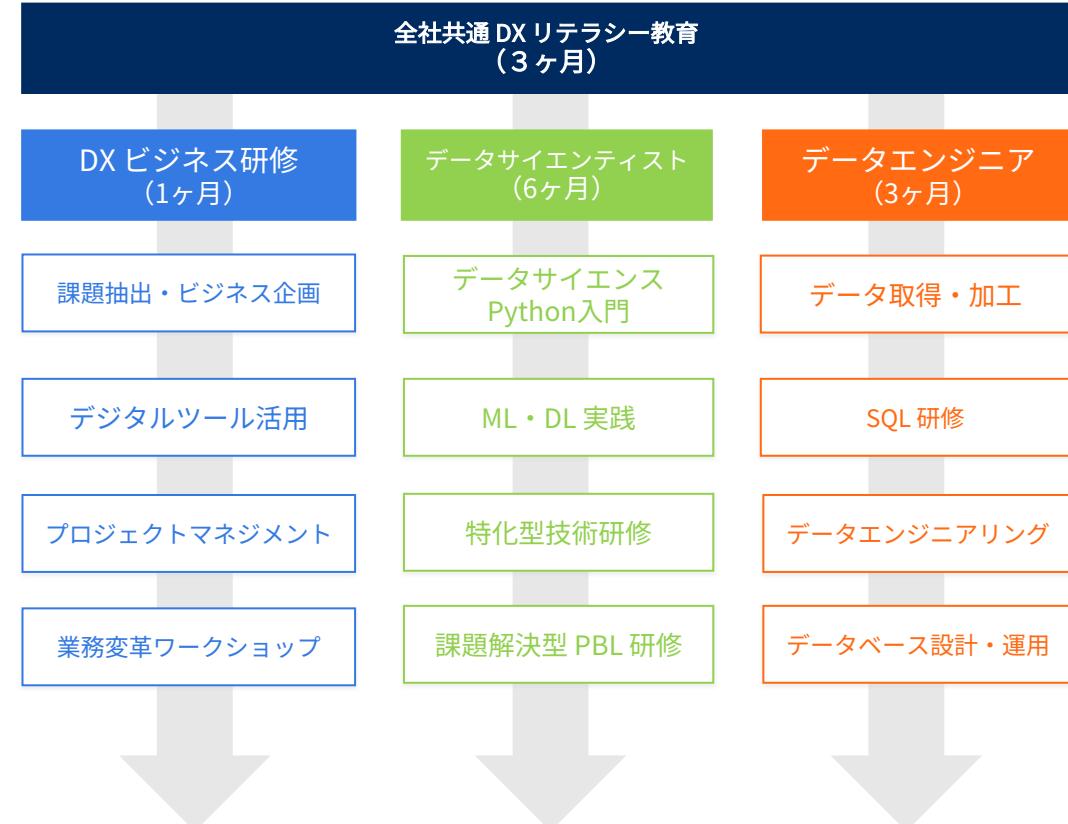
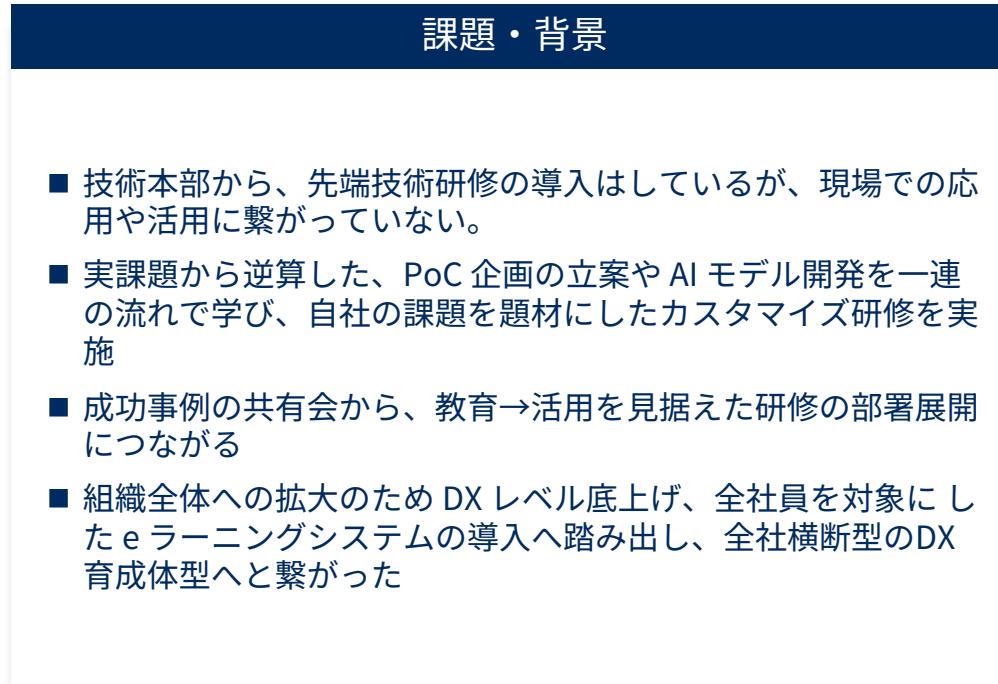
DX人材の構成を下記のように定義しました



全社教育でのポイント

1. トップダウンで間接部門3,500名にリテラシースキルを定着させる取り組みをスタート
2. eラーニングだけではなく、全員がリアルタイム研修のアウトプットを卒業要件として実施
3. 全社でDX事例、PBLやコンテンツ記事を定期的に発信するTeamsコミュニティを立ち上げ、その中で受講生の公募を実施

技術本部に向けた専門人材向け PBL 研修から 3 年間で全社 DX 人材研修へ



事例：住友重機械工業（全社 DX 人材育成の拡大）



2019 ① ② 2020 ③ ④ ⑤ 2021 ⑥ ⑦ ⑧ | ⑨ 2022 ⑩ ⑪ ⑫ →

発展・PBL

データサイエンティスト協会
独り立ちレベル

④【PBL】

対象者：技術本部
人数：5名
決済者：技術本部
提供方法：ライブオン
期間：6ヶ月間
背景：③受講者から選抜
選出をしPBL研修へ

⑦【PBL】

対象者：技術部
人数：7名
決済者：技術部
提供方法：ライブオン
期間：6ヶ月間
背景：⑥受講者から選抜
選出をしPBL研修へ

⑪【PBL】

対象者：技術部
人数：5名
決済者：技術部
提供方法：ライブオン
期間：6ヶ月間
背景：⑩受講者から選抜
選出をしPBL研修へ

応用

データサイエンティスト協会
見習い～独り立ちレベル

①【DL実践】

対象者：技術本部
人数：20名
決済者：技術本部
提供方法：ライブオン
期間：3日間
背景：問い合わせからAI
研修の受講希望

②【ML実践】

対象者：技術本部
人数：20名
決済者：技術本部
提供方法：ライブオン
期間：3日間
背景：①の習熟度がよく
同メンバーへ別講座

③【DL・ML実践】

対象者：技術本部
人数：20名
決済者：技術本部
提供方法：ライブオン
期間：3日間×2
背景：①②の研修を継続

⑥【DL・ML実践】

対象者：技術本部
人数：20名
決済者：技術本部
提供方法：ライブオン
期間：3日間×2
背景：①②の研修を
2年間継続

⑧【DL・ML基礎実践】

対象者：全部署
人数：100名
決済者：人事部
提供方法：ライブオン
期間：1ヶ月間
背景：全社手挙げ研修
⑥を継続実施

⑩【DL・ML基礎実践】

対象者：全部署
人数：150名
決済者：人事部
提供方法：ライブオン
期間：1ヶ月間
背景：全社手挙げ研修⑧
を拡大し継続実施

基礎

データサイエンティスト協会
見習い

⑤【DL・ML基礎実践】

対象者：全部署
人数：100名
決済者：人事部
提供方法：ライブオン
期間：1ヶ月間
背景：技術本部から人事部
へ横展開に成功

⑨【AIビジネス企画】

対象者：全部署
人数：60名
決済者：人事部
提供方法：ライブオン
期間：1日×3開催
背景：データ分析⑧から
ビジネス研修へ拡大

⑩【AIビジネス企画】

対象者：全部署
人数：100名
決済者：人事部
提供方法：ライブオン
期間：1日×5開催
背景：ビジネス研修⑨の
受講者拡大

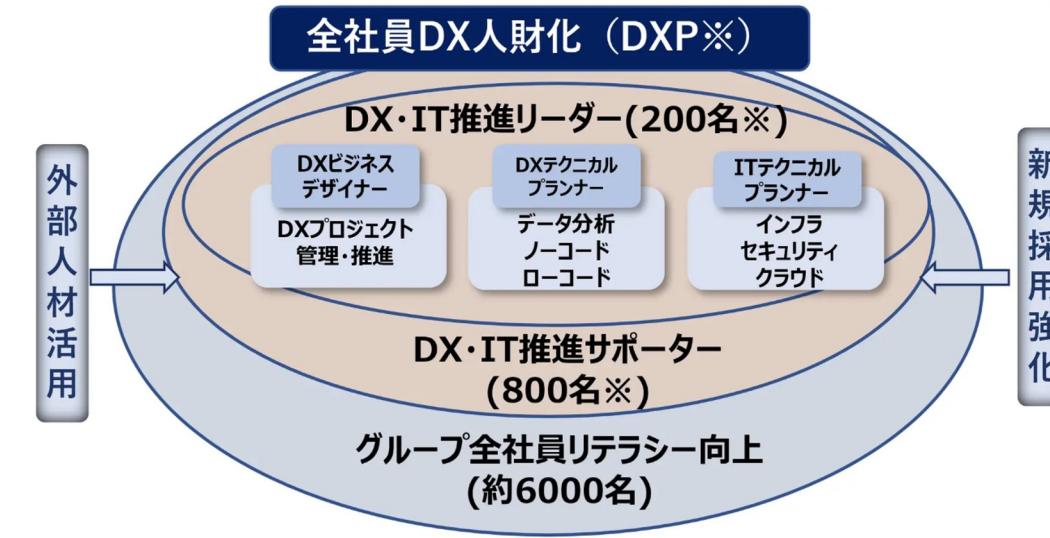
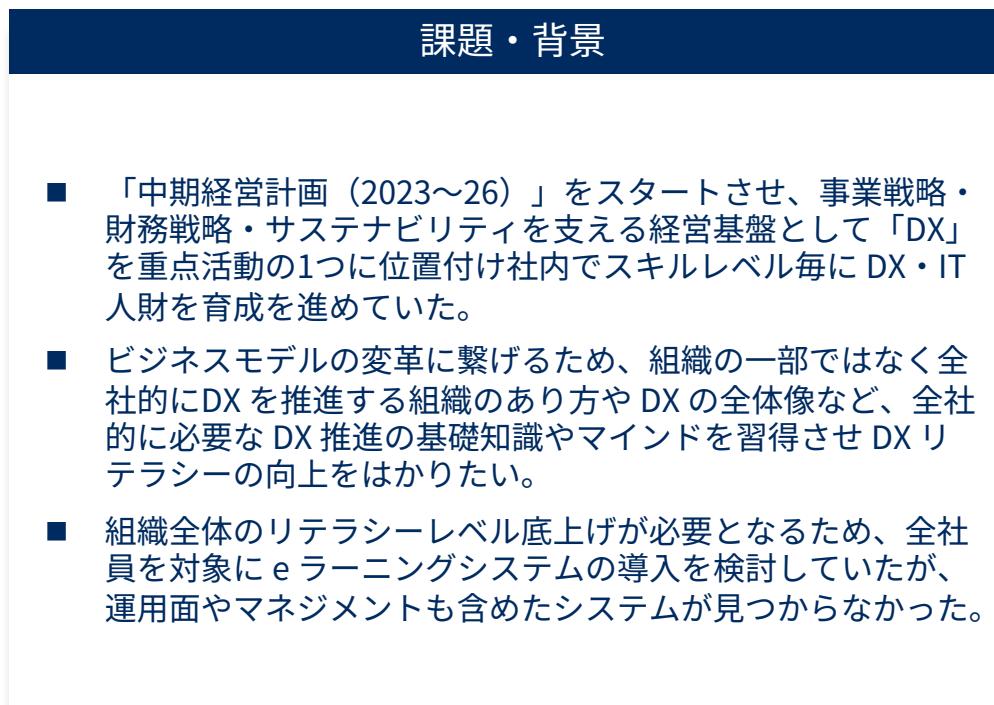
リテラシー

全社向け DX 教育

⑪【新人基礎研修】

対象者：新入社員
人数：160名
決済者：人事部
提供方法：ライブオン
期間：1ヶ月間
背景：全部署研修⑧から
新入社員研修へ拡大

サッポロホールディングスの全ての関連会社 外食事業の店舗スタッフまで拡大し 6,000人の DX・IT リテラシー向上をサポート



※センター、リーダーは2022年・2023年に育成する人財の合計数

引用：サッポロホールディングス株式会社 プレスリリース
<https://www.sapporoholdings.jp/news/dit/?id=9047>



るべき教育で人の力を解放する

